

社会技術研究開発事業 「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域
平成26年度採択プロジェクト企画調査 事後評価報告書

平成27年6月17日

1. 研究代表者：大武 美保子 千葉大学大学院工学研究科 准教授

2. 課題名：共想法による多世代交流支援方法の検討

3. 期間：平成26年11月～平成27年3月

4. プロジェクト企画調査の概要

本企画調査は、研究代表者が開発した高齢者の認知機能訓練のための会話支援手法である共想法を用いた多世代交流支援によって、多世代が共に創造的な活動に参加するコミュニティを創出し、若者・次世代が高齢者を支えるだけでなく、高齢者が若者・次世代を支えることで、多世代が支え合う社会の実現を目指すものである。本調査では、共想法による多世代交流支援の可能性やコミュニティの変容を捉える計測・評価方法、社会実装への道筋のロジックやビジネスモデル等を検討するために、アンケートやヒアリング調査、ワークショップを中心に取り組んだ。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標達成状況

プロジェクト企画調査として予定された活動は概ね実施されたが、当初の目標については一部達成されていないものがあった。アンケート調査やワークショップなどを精力的に実施し、多面的な検討がなされたことや、多世代交流活動に対するニーズ分析を行ったことは評価できる。一方で、共想法がどのような場面で活用できるかという検討に重きが置かれ、地域コミュニティにどのような変容をもたらし、最終的に目指す社会にどのように結びつくのかの考察が必ずしも十分でなく、その道筋が明確化されていないように思われる。共想法が多世代共創による地域コミュニティ・デザインの有効なツールとなり得ること、またツールが効果的に活用しうる社会のしくみの検討も合わせてより考察を深め、その意義を明確にすることが期待される。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

解決しようとする社会的課題及び目指す都市・地域のビジョンの明確化については、あまりなされなかった。高齢者が若者・次世代を支える社会という大きなビジョンは提示されたものの、都市や地域によって世代の構成や環境は大きく異なる。そのため、地域の類

型化や対象地域の絞り込みを行った上で、どのような支え合いが必要なのか、問題やニーズを深掘りし、より具体的なビジョンを提示することが期待される。また、子育て世代とリタイアした高齢者世代の交流が中心のようにも思われるが、年齢層や地域特性などによって高齢者の在り方が多様化していることや、若者や現役世代の人々、その地域で働く人々なども考慮した地域ビジョンの検討が望まれる。

また、本企画調査における「多世代共創」および「持続可能性」については、更なる明確化が期待される。「多世代共創」については、街歩き共想法での世代間交流や地域資源の発掘の可能性を示した点については一定の評価ができるが、全般的に「多世代共創」の捉え方の検討よりも共想法がどこで使えるかという視点が強い印象を受ける。どのような多世代が何を *co-creation* することで、どのような問題を解決しようとしているのか、それがどのように地域の持続可能性に結びつくのかについて、論理的に提示されることを期待したい。

プロジェクトの実施体制については、より具体的な検討が求められる。本企画調査は、大学の研究者および共想法を推進する NPO が中心となって実施され、共想法を中心とした短期的な事業化に重点が置かれていたように思われる。研究開発プロジェクトの提案に向けては、持続可能な都市・地域のデザインについて構想を深化させ、その視点から、想定する実証地域で問題解決に取り組む実践者や研究者の参画・連携について検討を十分に行うとともに、それを推進するためのプロジェクト・マネジメント体制の検討を期待したい。

以上